

第6回専門職大学基本計画検討委員会の開催結果について

1 日 時 令和4年9月14日（水） 10:00～11:30

2 委員会出席者

- 会長 生源寺眞一（福島大学食農学類長）
- 委員

今井敏（(独)農林漁業信用基金理事長）、牛尾陽子（東北大学監事）、小沢互（山形大学農学部教授）、神山修（山形県専門職大学整備推進監）、北柴大泰（東北大学農学部教授）、柴田晋吾（山形県農林水産部参事）、野堀嘉裕（山形大学名誉教授）、村松真（山形大学地域教育文化学部准教授）、伊藤倫子（米沢牛いとう牧場（株））、早坂和紀（(株)SAKU-Labo取締役）、遠田勝久（(有)遠田林産代表取締役）、阿部清（(公財)やまがた農業支援センター副理事長）、後藤雅喜（山形県農業協同組合中央会常務理事）、菊地繁美（山形県立農林大学校長）、吉田直史（山形県教育次長）

3 会議の概要

事務局から「第5回委員会後の検討状況」及び「基本計画最終報告（案）」について資料により説明の上、意見交換を行った。

【主な意見】

○ 基本計画最終報告案について

- ・東北農林専門職大学の養成する人材像を見ると、時代が必要とする農林業人材を育成するという点で、東北だけでなく日本の農業を引っ張っていける方々を養成することができるのではないかと期待している。
- ・入学者選抜について、妥当な選抜方法である。高い意欲、意識を持った生徒さんが集まることを期待している。今後は周知が大事なので、引き続きお願いしたい。また編入学希望者、聴講生希望者が多くなることに繋がっていけばとも感じている。
- ・学生等の理解を深めるため、内容の軸は変えずにポリシー等の構造を修正するという説明があったが、こうした学生ファーストの姿勢について高く評価したい。こうした姿勢を持ち続けることが良い学生を集め、良い専門職大学に成長する原動力になるもの。
- ・実習を大切にすることを指すということは良いこと。この大学を卒業して地域で活躍する学生を見るのをとても楽しみにしている。

○ 開学準備について

- ・学生向けのPRや地元の協力体制といった課題ごとに詳細なスケジュールを立てて、万全の態勢で準備を進めて頂きたい。
- ・地域に愛される大学になっていくには、今まで以上に積極的に情報発信する必要がある。
- ・第1期生となる現在の高校2年生は、具体的な進路決定に向けた三者面談等の時期

に差し掛かっている。専門職大学では、どういうことを勉強するのか等、具体的な情報を生徒、保護者あるいは実際に進路指導に携わる学校の教員に引き続き提供して頂くことが大切。

- ・認可をしっかりもらって頂きたい。

○ 農林大学校について

- ・農林大学校のカリキュラム、教育方針等との整合性、教員配置の調整等について上手にやってほしい。
- ・この専門職大学の強みは実績があり、地域に認知されている農林大学校を附属に持つこと。うまく生かした大学運営をしていくように努力して頂きたい。
- ・農林大学校の機能強化に引き続き取り組み、専門職大学が開学した際には相乗効果も引き出していきたい。

○ その他

- ・開学に合わせ、地域が盛り上がり欲しい。
- ・この大学が学生たちにとって素晴らしい出会いと学びの場となり、生産者として仲間が増えていったらいいなと切に願っている。
- ・卒業後は農業、林業の現場に携わる学生を輩出する学校になってほしい。
- ・より多くの県内の高校生が専門職大学に興味関心を持って、1人でも多く入学を志願する状況を生み出すためには、高校と連携していくという視点も大切。
- ・我々も今後もいろいろな面で連携をさせて頂きたい。
- ・実際に学生が入って、成長し、地域の担い手になっていくところまで、サポートするのが、教育機関の役割だと思う。取捨選択しながら考え取り組んでいければいい。

以上